

# 一般質問通告書

【第63回定例会】

多可町議会議員 河崎 一 様

多可町議会議員 大山由郎



受 領 日	番号
平成 27 年 〇 月 2 日 午前・午後 〇 時 〇 分	/

質 問 の 項 目 及 び 要 旨	答 弁 を 求 め る 者
1. 子どもの安全対策をさらに推進せよ	教育長
別紙にて	
2.	
3.	

## 質 問 の 内 容

まもなく新学期が始まる。子どもたちが新しい生活で、元気に楽しく過ごせることを願う。思い出に残る新年度にするために、子どもたちが安全に過ごせるようにすることが不可欠だ。保護者が十分注意を払うことも大切だが、地域の人たちの見守りも必要だ。春になり、子どもたちが開放的な気分になりがちだが、保護者にとっては、犯罪や事故に巻き込まれないかが心配だと思う。これからは、今までより子どもだけで活動する機会が大幅に増えて、行動範囲も広がる。それだけに、この機会に1人で危険な場所に行かないことなどを親子でよく話し合い、確認しておく。死角になって人目につきにくい道、民家や人通りが少ない場所など、親子で出し合い、注意する点を話し合うことは、子ども自身がどんな行動が危険なのかを意識する上でも大切だ。行政としては、①公園や児童館などの整備 ②道路の安全対策 ③子どもに対する犯罪や事故を防ぐため、住民同士がよく知り合う地域づくりが重要である。

また、事故や犯罪だけでなく、学校生活についても、安全・安心は保障されなければならない。全国的な調査では、3人に1人が「いじめ」を経験し、「不登校・引きこもり」「精神的問題」を抱える子どももあり、このことの影響で孤立に追い込まれる現状があるとされている。いうまでもなく学校という空間は、教育の場であると共に、日中の子どもたちの生活空間でもある。ところが学校にいる大人は教育のプロである教員がほとんどで、その教育フィルターだけで子どもを見ていると見落としが多く出る危険性がある。経済的な課題を抱える家庭の子、虐待を受けている子、保護者が病気や障がいを抱える子、1人親家庭の子など、どの福祉課題も子ども自身では解決できないものばかりだ。子どもたちはこの課題の重さに気づかないこともあり、また先生や友達に話すことができず、これが原因となり学校生活で不利益を被っている場合もある。2008年度より文科省がスクールソーシャルワーカー活用事業を始めている。スクールソーシャルワーカーは社会福祉の専門家で、集団を見ながら教育活動を進める先生に対し、「個人」を集中して見ることができ、子どもたちの快適な環境づくりを支援する子どもたちの代弁者でもある ④スクールソーシャルワーカーの活用についてどう考えるか。